

ご担当者さま

2018年6月4日  
(全6枚 1/6枚目)

# 節目の第15回は例年以上に盛りだくさん！ SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2018 全ラインナップ発表!! 7/13(金)~22(日)開催!!

★オープニング上映では、地元・川口市が製作した『君がまた走り出すとき』をワールド・プレミア！

★メインとなる「コンペティション」は規約も新たにリニューアル！国際コンペティションでは、過去最多の98の国・地域からエントリー！映画界の未来を担う新鋭たちが手掛けた、国際コンペティション10本、国内コンペティション 長編部門4本、短編部門9本の野心作を上映！

★“15周年特別企画”と題し、埼玉県出身監督にスポットを当てた「飛翔する監督たち from SAITAMA」、古今東西の名匠を追ったドキュメンタリー特集「名匠たちの軌跡」、大人から子どもまで楽しめる「怪盗グルーシリーズ一挙上映」の3企画を開催！

平素より大変お世話になっております。

世界に先駆けてデジタルシネマにフォーカスし、次代を担う若手映像クリエイターの登竜門として2004年にスタートした「SKIPシティ国際Dシネマ映画祭」は、これまで、カンヌ映画祭で3冠に輝いたトルコの巨匠ヌリ・ビルゲ・ジェイラン監督を日本でいち早く紹介し、日本人監督においても、白石和彌監督（『孤狼の血』）、中野量太監督（『湯を沸かすほどの熱い愛』）をはじめ多数の若手監督が本映画祭をきっかけに羽ばたいていきました。そして来る7月13日（金）～22日（日）の10日間、本映画祭は節目となる15回目の開催を迎えます。

本日6月4日（月）、都道府県会館（東京・永田町）にて記者発表を行い、**オープニング作品、国際コンペティション、国内コンペティションのノミネート作品、15周年特別企画をはじめとする全上映ラインナップを発表いたしました。**詳細は下記の通りです。本年も映画の未来を担う、新たな才能の発掘に取り組んでまいります。ぜひ貴媒体にて本情報をご紹介くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



## オープニング作品は、地元・川口市が製作した新作映画『君がまた走り出すとき』を上映！

15年目を迎える節目の年を記念して、今年のオープニング作品は開催地・川口市が製作！市内各所で撮影が行われ、約300人の市民がエキストラとして参加した、まさに“地域参加型映画”のワールド・プレミア上映で幕を明けます。監督を務めたのは、短編『母との旅』『エンドロールを撮りに』が評価された新鋭・中泉裕矢。日本人男性で初めて世界6大マラソンを走破した市民ランナー・古市武さん（川口市在住）の生き様に触発され、マラソンを通じて人生を見つめ直す人々の姿を描いた本作。若手注目株の寛一郎を主演に迎え、山下リオ、菜葉菜、辻本祐樹らフレッシュな面々と、長谷川初範、浅田美代子、松原智恵子らベテラン陣が脇を固めています。



©2018 川口市



### 監督：中泉 裕矢

1979年生まれ、茨城県出身。2011年から映像製作に携わり、自身が監督した短編映画『母との旅』（13）、『エンドロールを撮りに』（14）が国内映画祭にてグランプリ5冠、観客賞8冠を達成。2015年12月公開の初商業映画『4/猫〜ホテル菜の花〜』にてテアトル新宿など、全国公開を果たす。現在はテレビ東京「ガイアの夜明け」の演出を担当。

出演：寛一郎 山下リオ 菜葉菜 辻本祐樹 綱島恵里香 安居剣一郎・長谷川初範 浅田美代子・松原智恵子  
製作：川口市 特別協力：埼玉県/SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ <2018/日本>

**15周年特別企画①！「飛翔する監督たち from SAITAMA」  
いま、日本映画界が期待を寄せる埼玉県出身の4監督を特集！**

現在、日本映画界の第一線では、埼玉県出身の監督が多数活躍しています。本企画ではその中から、**石井裕也監督、入江悠監督、沖田修一監督、吉田恵輔監督にスポットを当て、彼らの話題作を特集！**

第91回キネマ旬報ベスト・テン日本映画ベスト・テン第1位に輝いた、石井裕也監督の『映画 夜空はいつでも最高密度の青色だ』、興行収入24億円を突破した、入江悠監督の大ヒット作『22年目の告白—私が殺人犯です—』、第56回ブルーリボン賞作品賞ほか数々の映画賞に輝いた、沖田修一監督による青春映画の金字塔『横道世之介』、映画ファンから熱い支持を受ける吉田恵輔監督がその手腕を遺憾なく発揮した『犬猿』の4作品を上映します。

**今後の日本映画を牽引していくであろうこと間違いなしの才能に、地元・埼玉県の映画祭からエールを贈ります!!**



© 2017「映画 夜空はいつでも最高密度の青色だ」製作委員会



© 2017 映画「22年目の告白—私が殺人犯です—」製作委員会



© 2013「横道世之介」製作委員会



© 2018「犬猿」製作委員会

**『映画 夜空はいつでも最高密度の青色だ』**  
監督：石井裕也  
出演：石橋静河、池松壮亮、松田龍平  
配給：東京テアトル、リトルモア  
＜2017年／日本／108分＞

**『22年目の告白—私が殺人犯です—』**  
監督：入江悠  
出演：藤原竜也、伊藤英明、仲村トオル  
配給：ワーナー・ブラザーズ映画  
＜2017年／日本／117分＞

**『横道世之介』**  
監督：沖田修一  
出演：高良健吾、吉高由里子、池松壮亮、伊藤歩、綾野剛  
配給：ショウゲート  
＜2012年／日本／160分＞

**『犬猿』**  
監督：吉田恵輔  
出演：窪田正孝、新井浩文、江上敬子、寛美和子  
配給：東京テアトル  
＜2017年／日本／103分＞

**15周年特別企画②！「名匠たちの軌跡」  
映画史に名を刻む巨匠、黒澤明、ホウ・シャオシェン、エドワード・ヤン、ミハエル・ハネケの映画術に迫った貴重なドキュメンタリーを無料上映！**

日本のみならず世界を代表する映画監督の一人である**黒澤明**、台湾映画界を代表する双璧として映画史に名を刻む**ホウ・シャオシェン**と**エドワード・ヤン**。そしてカンヌ映画祭で2作連続パルム・ドール受賞の快挙を達成した、現代を代表する名匠**ミハエル・ハネケ**。本企画では、**彼らに密着した貴重映像やインタビューを通して浮かび上がる、それぞれの哲学や垣間見える素顔を捉えたドキュメンタリー作品を特集**、「映画監督とは何か？」を考察します。

**フランスの映像作家クリス・マルケルが『乱』のメイキング・ドキュメンタリーとして制作した『A.K. ドキュメント黒澤明』**、先日のカンヌ映画祭で日本人として21年ぶりのパルム・ドールに輝いた**是枝裕和監督が、自身も敬愛してやまない**と公言する**ホウ・シャオシェン**と**エドワード・ヤン**を追った『映画が時代を写す時—侯孝賢とエドワード・ヤン』、イザベル・ユペールやジュリエット・ピノシュら、ハネケのミュージズたちへのインタビューに加え、**ハネケの映画理論や演出術を10年にわたり密着した『ドキュメンタリー：映画監督ミハエル・ハネケ』**という、日本ではほとんど劇場で上映されていない貴重なドキュメンタリーを、なんと**無料上映！！**  
**今後もおそらくスクリーンで鑑賞できる機会はほぼないであろう、映画ファン必見の企画です！**



© 2003 パリ・グリニッチ・フィルム社 / アスミック・エース

**『A.K. ドキュメント黒澤明』**  
監督：クリス・マルケル  
ナレーション：蓮實重彦  
提供：アスミック・エース  
＜1985年／フランス、日本／74分＞



**『映画が時代を写す時—侯孝賢とエドワード・ヤン』**  
監督：是枝裕和  
提供：テレビマンユニオン  
＜1993年／日本／47分＞



© Yves Montmayeur / WILDart FILM

**『ドキュメンタリー：映画監督ミハエル・ハネケ』**  
監督：イブ・モンマユール  
提供：WILDart FILM  
協力：オーストリア大使館 / オーストリア文化フォーラム  
＜2013年／オーストリア、フランス／90分＞

**15周年特別企画③！「怪盗グルーシリーズ一挙上映」  
大人から子どもまで、映画祭で映画をもっと身近に楽しもう！**

世界的大ヒットアニメ「怪盗グルー」シリーズ！本企画では『怪盗グルーの月泥棒』『怪盗グルーのミニオン危機一発』『怪盗グルーのミニオン大脱走』を上映！“映画祭で映画を観る”楽しさを、大人から子どもまで一緒に堪能できるプログラムです！



© 2010 Universal Studios. All Rights Reserved.

『怪盗グルーの月泥棒』  
〈2010年/アメリカ/95分〉



© 2013 Universal Studios. All Rights Reserved.

『怪盗グルーのミニオン危機一発』  
〈2013年/アメリカ/98分〉



© 2013 Universal Studios. All Rights Reserved.

『怪盗グルーのミニオン大脱走』  
〈2017年/アメリカ/90分〉

**映画祭のメインとなる「コンペティション」は、15年目を機に規約・構成をリニューアル！！**

本映画祭のメインとなる「コンペティション」は、**15年目を機に、「若手映像クリエイターの登竜門」として新たな才能の発掘・育成を一層強化するため、規約・構成をリニューアル！**

海外作品と日本作品を幅広く対象にした「国際コンペティション」と、日本作品を対象とした「国内コンペティション」(長編部門・短編部門)の、**2部門3カテゴリーで構成いたします！**

「国際コンペティション」および「国内コンペティション 長編部門」は、長編制作本数3本以下の監督による60分以上の作品、「国内コンペティション 短編部門」は長編制作未経験の監督による15分以上60分未満の作品を公募。

本年は**過去最多となる98の国と地域から、「国際コンペティション」には合計656本、「国内コンペティション 長編部門」には67本、「国内コンペティション 短編部門」には176本の応募がありました。**

厳選なる一次審査を経た、「国際コンペティション」10本、「国内コンペティション 長編部門」4本、「国内コンペティション 短編部門」9本がノミネートとなりました！

今年の「国際コンペティション」審査委員長は、俳優の渡辺真起子さん、「国内コンペティション」審査委員長には、数々の映画を手掛けるプロデューサー・榎井省志さんが務め、最終日7/22(日)のクロージング・セレモニーで最優秀作品賞(グランプリ)をはじめ各賞を発表します。

コンペティション応募数内訳	海外長編	国内長編	国内短編
	589本	67本	176本
国際コンペティション応募数	656本		
国内コンペティション応募数		243本	
応募総数	832本		
応募国数	98の国・地域		

**国際コンペティションには過去最多の98の国・地域からエントリー！  
応募数656本から厳選した、10作品がノミネート！**

今年の「国際コンペティション」には、ロシアから届いたオペラ・エンターテインメント『スポットライト』や、今年のサンダンス映画祭での脚本賞に輝き、『バードマン あるいは(無知がもたらす予期せぬ奇跡)』やサム・ライミ監督による『呪怨』のリメイク版での主演が控えるアンドレア・ライズボロー主演の『ナンシー』、昨年の釜山国際映画祭コンペティション部門で国際批評家連盟賞を受賞した韓国映画『最後の息子』、フィリピン人監督によるセルフ・ドキュメンタリー『ブリス、マイ・スウィート・ホーム』、ホロコーストを生き抜いたユダヤ人の老人がアルゼンチンから故郷ポーランドへと旅をする感動ドラマ『ザ・ラスト・スーツ (仮題)』(スペイン、アルゼンチン合作)、オランダで暮らすコソボ難民の葛藤を描き、米アカデミー賞外国語映画賞コソボ代表にも選ばれた『招かれざる者』(コソボ、オランダ合作)、些細な近所トラブルが歯止めをなくしてエスカレートしていく様をブラックなホーム・ドラマとして描いたアイスランド発の『あの木が邪魔で』など、エンターテインメントから深淵なドラマ、ドキュメンタリーまで、世界各国から日本未公開作品が集結！**ノミネート作品全てがジャパン・プレミア以上の作品となります。**

国際コンペティション ノミネート作品



© Zentropa Production

『ダーリンの憂い』

監督:ピアギッテ・スターモス  
 <2017年/デンマーク、スウェーデン  
 /101分>  
 \*アジア・プレミア



© PananawStudio

『プリス、マイ・スウィート・ホーム』

監督:ナウルズ・バギドボン  
 <2017年/フィリピン、韓国/74分>  
 \*国際ナショナル・プレミア



© an ATO production

『最後の息』

監督:シン・ドンソク  
 <2017年/韓国/124分>  
 \*アジア・プレミア



『ザ・ラスト・スーツ(仮題)』

監督:パブロ・ソラルス  
 <2017年/スペイン、アルゼンチン/86分>  
 \*アジア・プレミア



『スポットライト』

監督:キリル・プレトニョフ  
 <2017年/ロシア/97分>  
 \*アジア・プレミア



『ナンシー』

監督:クリスティーナ・チョウ  
 <2018年/アメリカ/86分>  
 \*アジア・プレミア



©彼女はひとり

『彼女はひとり』

監督:中川奈月  
 <2018年/日本/60分>  
 \*ワールド・プレミア



『ザ・スワン』

監督:アウサ・ベルガ・ヒョールレーフズドッテル  
 <2017年/アイスランド、ドイツ、エストニア/  
 91分>  
 \*アジア・プレミア



『あの木が邪魔で』

監督:ハーフシュテイン・グナル・シー  
 グルズゾン  
 <2017年/アイスランド、デンマーク、  
 ポーランド、ドイツ/89分>  
 \*アジア・プレミア



© Asfaltfilms 2017

『招かれざる者』

監督:エドゥ・リズヴァリ  
 <2017年/コソボ、オランダ/85分>  
 \*アジア・プレミア

日本の若手監督たちがしのぎを削る国内コンペティション！  
 長編部門4作品、短編部門9作品がノミネート！

日本映画の未来を担う才能の発掘を目的とする「国内コンペティション」では、長編部門には、若手人気俳優の芋生悠、中山優輝主演の青春映画『あの群青の向こうへ』、松浦祐也（『ローリング』）と和田光沙（『菊とギロチン』）が底辺で必死に生きる兄妹を体当たりで演じた『岬の兄妹』の2作品がワールド・プレミア！さらに池内万作主演のハードボイルドな復讐劇『キュクロプス』、山田キヌヲ、韓英恵、川瀬陽太といった現在の日本のインディペンデント映画に欠かせない実力派俳優たちが勢揃いした『情操家族』の4本がノミネート！

短編部門では、アニメーション作品『Birth-おどるいのち-』や、俳優の板垣雄亮が舞台脚本を映画化した初監督作品『はりこみ』、ジョン・ウー監督の『マンハント』にも出演したアクション女優・屋敷紘子が主演を務め、こじらせ女子の奮闘を描くコメディ『予定は未定』、ピンサロで働く女性と殴られ屋の男のひと時の邂逅を綴る『口と拳』、佐伯亮、大原櫻子（林田さくらこ名義での出演）主演の、落ち目タレントと新人マネージャーのドタバタ・エンターテインメント『ふかつのじゅもん』など、エネルギー漲る若手監督たちによる、多種多様な作風の9作品がノミネートしました！

国内コンペティション(長編部門) ノミネート作品



© 大庭功睦

『あの群青の向こうへ』

監督:廣賢一郎  
 <2018年/日本/96分>  
 \*ワールド・プレミア



『キュクロプス』

監督:大庭功睦  
 <2018年/日本/108分>



© 東京藝術大学大学院映像研究科

『情操家族』

監督:竹林宏之  
 <2017年/日本/83分>



『岬の兄妹』

監督:片山慎三  
 <2018年/日本/89分>  
 \*ワールド・プレミア

**国内コンペティション(短編部門) ノミネート作品**



© CHILD POKKE

**『Birth-おどろいのち-』**

監督:若見ありさ 池田爆発郎 大橋弘典  
 <2017年/日本/28分>



**『ヴィニルと鳥』**

監督:横田光亮  
 <2018年/日本/31分>  
 \*ワールド・プレミア



©belly roll film/ RECIPRO

**『予定は未定』**

監督:磯部鉄平  
 <2018年/日本/27分>



© Michihaya Mizoguchi

**『口と拳』**

監督:溝口道勇  
 <2017年/日本/49分>



**『凧』**

監督:川野邊修一  
 <2017年/日本/27分>



**『あいつは、いつも寝てる。』**

監督:樽井隆広  
 <2017年/日本/27分>  
 \*ワールド・プレミア



© FUNNY FOR

**『はりにみ』**

監督:板垣雄亮  
 <2017年/日本/28分>



©MOON CINEMA PROJECT

**『東京彗星』**

監督:洞内広樹  
 <2017年/日本/29分>



© Taro Shirai

**『ふっかつのじゅもん』**

監督:白井太郎  
 <2017年/日本/30分>

**毎年恒例のバリアフリー上映では、大ヒット作『8年越しの花嫁 奇跡の実話』を上映！  
 そのほか「ママ・シアター」「VR 上映」など関連企画も盛りだくさん！**

SKIP シティ国際 D シネマ映画祭では、コンペティション、特集企画以外にも多彩なプログラムが盛りだくさん！  
 毎年恒例の**バリアフリー上映**では、『**8年越しの花嫁 奇跡の実話**』を、日本語字幕・音声ガイド (UDCast 方式) で**上映**！そのほか、関連企画として、授乳施設も完備し、ベビーカーのまま入場可能な「ママ・シアター」では**大ヒットロングラン**を記録したドキュメンタリー『**人生フルーツ**』を上映。  
 さらに昨年大好評だった「VR 上映」では、大学の航空部を舞台にした青春漫画「**ブルーサーマル-青風大学体育会航空部-**」を VR で実写化した『**ブルーサーマル VR -はじまりの空-**』と、ウルトラマンゼロの VR 版『**ウルトラマンゼロ VR 大都会の戦慄 エレキング対ゼロ**』を上映します！  
 ほかにも SKIP シティを中心に活動するクリエイターが制作した作品を上映する「**メイド・イン SKIP シティ**」や、子どもたちが「**カメラクレヨン〜子どもたちが作った映画が、いま面白い！〜**」など多数の企画が開催されます！



© 2017 映画「8年越しの花嫁」製作委員会

**『8年越しの花嫁 奇跡の実話』**

監督:瀬々敬久  
 <2017年/日本/119分>



© 東海テレビ放送

**『人生フルーツ』**

監督:伏原健之  
 <2016年/日本/91分>



©小沢かな・新潮社/埼玉県/ SKIPシティ彩の国ジュエルプラザ

**『ブルーサーマル VR -はじまりの空-』**

監督:上田慎一郎  
 <2018/日本/12分>



©円谷プロ / ©ウルトラマンゼロ VR 制作委員会

**『ウルトラマンゼロ VR 大都会の戦慄 エレキング対ゼロ』**

監督:田口清隆  
 <2017/日本/6分>

## 主催者、国際コンペティション・国内コンペティション各審査委員長コメント

記者発表では、主催者の上田清司実行委員会会長（埼玉県知事）、奥ノ木信夫実行委員会副会長（川口市長）、八木信忠総合プロデューサー、土川勉ディレクター、渡辺真起子 国際コンペティション審査委員長、柘井省志 国内コンペティション審査委員長の計6名が登壇し、映画祭開催への期待と意気込みを語りました。コメントは以下のとおりです。

### ○上田 清司 （実行委員会会長／埼玉県知事）

今年で15回目となるSKIPシティ国際Dシネマ映画祭は、今年コンペティション部門の構成を再編した。その結果、これまでの最高数を10か国上回る、98の国と地域から合計832作品が集まり、まさに国際的な映画祭となってきた。先月カンヌ映画祭で『万引き家族』がパルムドールを受賞したが、今年の映画祭では、是枝監督が25年前に制作したドキュメンタリー映画を上映する。若手映像クリエイターの登竜門となっているこの映画祭に参加した監督が、是枝監督のように飛躍していただけたら、我々の望むところである。

### ○奥ノ木 信夫 （実行委員会副会長／川口市長）

今年の映画祭は15回目で節目の年となる。さらに地元・川口市が、今年の4月1日に中核市に移行したこともあり、それを記念して川口を舞台にした映画をオープニング作品として制作した。市内各所がロケーションに使われ、映画を愛する約300人がエキストラとしても参加し、まさに市民参加型の映画になった。今後も皆様に選ばれるまちづくりとして、映画祭もその一環として行い、ますます皆さんに評価していただけるよう努力していきたい。

### ○八木 信忠 （映画祭総合プロデューサー）

映画を作ろうとしている若い人たちを育てる場がないかということで、オープニング作品を製作することになった。シナリオを公募して、キャスト、スタッフ、制作費をサポートし、その後の劇場公開も支援している。オープニング作品の公募と、コンペティションを車の両輪として、若手映像クリエイターの輩出を目指していく。

### ○渡辺 真起子 （国際コンペティション審査委員長／俳優）

大変大きな役割を引き受けることになり、緊張しているが、国際コンペティションの審査委員長という役割を、俳優が担うことは多くはないのではないかと思います。2012年に、私も出演した中野量太監督の『チチを撮りに』という作品をこの映画祭に見つけていただいたことがあり、私自身もその作品で多くの賞をいただいた。15回目の開催ということで、ここから巣立った監督が、戻ってくる機会なのではないか。楽しい映画祭、新しい視点が見つかる映画祭になってほしいと思う。

### ○柘井 省志 （国内コンペティション審査委員長／株式会社アルタミラピクチャーズ代表取締役、プロデューサー）

人材育成は、言うは易しだが、実際には非常に難しい。それをずっと映画祭が支援し続けているのは、すごいことだと思う。かなりの見識と、高い志がないとできないことだと思う。審査会も今から楽しみにしている。この映画祭が大成功するように頑張りたい。

### ○土川 勉 （映画祭ディレクター）

15回目の節目の年を迎えられて、埼玉県、川口市を始めとした実行委員会、映像ボランティアの会の皆さん、すべてのスタッフはもちろん、この映画祭を支えてくれた観客の皆様に感謝したい。コンペティションや、特別企画、その他のイベントなど、充実したプログラムで、例年より1日多い日程で開催するので、ぜひ期待していただきたい。

## SKIPシティ国際Dシネマ映画祭 2018（第15回）開催概要

- 会期：2018年7月13日(金)～22日(日) <10日間>
- 会場：SKIPシティ 映像ホール／多目的ホール、MOVIX 川口（埼玉県川口市）ほか
- 主催：埼玉県、川口市、SKIPシティ国際映画祭実行委員会、特定非営利活動法人さいたま映像ボランティアの会
- 公式サイト：[www.skipcity-dcf.jp](http://www.skipcity-dcf.jp)

★本日解禁いたしました本映画祭の上映作品画像ほか素材については、下記よりダウンロードいただけます。

<http://3.gigafile.nu/0610-h35fe10b533e77787b8c8202b405b967a> ダウンロードキー：DF18 期限：2018/6/10(日)

★作品画像、テキスト資料、映画祭メインビジュアル、ロゴ、プレスリリースなどの素材は、【Image.net】でもご提供しております。

<https://www.image.net>

<お問合せ> SKIPシティ国際Dシネマ映画祭事務局 広報：堀切

TEL：048-263-0818 FAX：048-262-5635

MOBILE：090-4228-2342 E-Mail：[horikiri@skipcity.com](mailto:horikiri@skipcity.com) / [press@skipcity-dcf.jp](mailto:press@skipcity-dcf.jp)